

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (  可  否 )

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 木地挽	(ふりがな) きじひき	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	木地挽の家 (ジッキヤ) での仕事		
伝承地域	金山町山入 (町内一円)		
由来	<p>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか)</p> <p>文化6年(1809)の「新編会津風土記」によると、天正18年(1590年)蒲生氏郷が会津に入封し、郷里である近江国から木地挽を呼んだ。しかし、それ以前にも会津の木地挽はいた(地木地)。 本県の木地集落は、高杖(南会津町)、早稲沢(北塩原村)、弥平四郎(西会津町)など会津地方に多く分布していた。</p>		
内容	<p>(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</p> <p>ジッキヤ(直屋)とは、轆轤の芯棒をジキボウ(直棒)といい、これを使って仕事をするのでこう呼ばれた。家の曲がりの部分(中門)がジッキ屋(木地を引く部屋)である家が多い。厳冬の仕事はこのジッキヤの囲炉裏を中心に行われる。囲炉裏に薪を燃やし、大きな鍋がかけられ、凍り付いた資材をこの鍋の湯で溶かす。囲炉裏のそばにアテが据えられ、外の方にはキシが据えられている。</p>		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	金山町教育委員会	電話	0241-54-5333

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名 (ふりがな)	.....	※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵願います。(貼り付けずに、名前がわかるようにして同封ください。)
	性別・年齢	男 ・ 女                      歳	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成                      年   月   日 生	
	住所・電話	〒 電話	
団体	職業		
	団体名 (ふりがな)	.....	
	代表者氏名 (ふりがな)	.....	
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成                      年   月   日	
	問い合わせ先	電話	

## 【フリーフォーマット】

キーワード

### 木地師のジッキ屋での仕事

#### ○ノウシカタと中ホリ

男はアテの台に資材を湯の中から取りだして、男チョウナで外側をきれいに仕上げていく。特に手引き轆轤を使用していた時には、轆轤挽きの負担を軽くするため、丁寧に卵の肌のようになるまで仕上げていた。

しかし、水車や電力の動力が入るとノウシカタはやらず、直接ロクロカンナをかけた。

女はキシ（高さ 30CM 位の丸太をお椀の一部が入るようにえぐった台木）にノウシカタの終わった器の一部を入れ、両足を器用に回転させながら中を掘る。女チョウナでの作業は危険がいっぱいで熟練が必要である。

#### ○マワシカタ

乾燥し過ぎたり凍った資材は、湯を張った鍋に入れ、適度の材質にしてから使用した。

#### ○ロクロ挽き

ジッキ棒には麻かモウダの皮で縋った縄の上に布きれを巻き付けた紐、この紐を巻き付けてジッキ棒を回転させる。

紐の端に木の輪（クルリ）を、他方の端には棒きれを結びつけ、これを手に持って引き合う。ジッキ棒の先には三本爪が付き、これは品物によって大小取り替えることが出来るが、その爪に木地が打ち込められ、回転を利用して角カンナが当てられ、削られる。動力が変わってからは同じ方向に回るのでロスがなくなり、カンナも丸棒のカンナを利用するようになった。

このロクロを回す役目は主に女の仕事で、男はカンナを使用した。



ロクロ製品(奥会津博物館)